

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科の特性を活かして地域のニーズやグローバル化する社会の要請に応える教育活動を展開し、地域や次代を支えリードする人材を育成する。

1. 多様な学びを通して能力・適性を伸ばし、自らの将来を展望し、目標達成に向かう自己実現力を育む。
2. 急速に変化する社会の中でも、広い視野を持ち、自らの社会での役割を見出し、活躍できる「自主、自律、創造」の力を育む。
3. 本校で身につけた知識や経験に自信と誇りを持ち、様々な困難に立ち向かっていくとともに、他者を理解し、協働できる寛容な心を育む。
4. 学校、地域における教育資源と社会資源を相互活用しながら交流を推進し、一層地域に信頼され愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。

- ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、経験の少ない教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。特にICT機器の活用については感染症対策としても、一層取組みを進める。
- イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化させる。
- ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。
- エ 「産業社会と人間」・「総合的な探究」を土台とした3年間を見据えた「探求学習」の実施。

※学校教育自己診断（生徒）における「わかりやすい授業」の肯定率を、R5年度には70%以上をめざす。（H30 59.6%、R1 65.1%、R2 65.7%）

※R3年度には進路未定率1%以下を達成し、R5年度までに0%をめざす。（H30 2.0%、R1 1.0%、R2 1.8%）

2 キャリア教育、人権教育の推進

(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かし、協働し生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。

- ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。
- イ 「自分はどのように生きるのか」を考えさせ、「自分の生き方の指針」を生徒の中に作らせるための、人権教育とキャリア教育を推進する。
- ウ 生徒自らが、挨拶、礼儀、身だしなみ等、規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではぐくむ。
- エ 生徒自らが、時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的生活習慣を確立させる。

※R5年度には18クラス規模で3800件未満をめざす。（R2年度19クラス規模で4252件）

3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成

(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。

- ア 学校行事や特別活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。
- イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解し共に学び、意思疎通を図ることによって、将来において共生、協働できる姿勢をはぐくむ。
- ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。
- エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。

(2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。

- ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。
- イ 学校ホームページを活用し、学校情報発信を積極的に行う。

※学校教育自己診断（生徒）における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率を、R5年度には75%以上をめざす。

（H30 62.4%、R1 67.8%、R2 71.0%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3年 12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【確かな学力の育成】*（ ）内の数値は昨年比%</p> <p>○自己診断（生徒）から、「わかりやすく楽しい授業」70.5%（+4.8）、「コンピュータを使う機会が多い」65.1%（+15.4）、「教え方に工夫をしている先生が多い」79.4%（+1）。</p> <p>○自己診断（教員）から、「生徒にICT機器を使用させている授業が多い」58.3%（プラス34.2）「教材の精選・工夫を行っている」80.6%（-14.1）、「学習指導の方法等について他教科の担当者と話し合う機会がある」47.2%（-34.4）。</p> <p>以上のことから、各教員の授業改善の成果は少しずつ表れてきていると思われる。また今年度はオンラインチームと授業力向上委員会を中心に行った様々な研修の、1人1台端末の取組みの成果もあらわれていると考えられる。一方で、コロナ禍の影響もあり、それらの取組みが急務になり、じっくりと深く教材研究をしたり、昨年度実施し今年度も予定していた他教科の教員と話し合うような研修ができなかった影響もあらわれていると思われる。</p> <p>【キャリア教育、人権教育の推進】</p> <p>○自己診断（生徒）から、「将来の進路や生き方について考える機会がある」81.6%（+0.8）、「命の大切さや社会のツールについて学ぶ機会がある」83.4%（-3.4）。「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」84.3%（-5）。</p> <p>以上のことから、進路について生徒自らが考え決定できるような指導がある程度できていると思われるが、さらに丁寧に生徒一人ひとりと向き合った指導が必要である。人権教育については、微減しているが、変わらず高い肯定率であるので、今後も継続的に取り組んでいくべきであると思う。</p>	<p>第1回（6/28）</p> <p>○令和3年度学校経営計画について→委員全員に了解いただく。</p> <p>○今後のオンライン授業についての取組みの報告→1人に1台端末を配布するということだが、語学力の低下や視力の低下が気になる。小中学校でも同様の取組みが始まり低年齢層から同様の懸念があるとのこと意見をいただく。</p> <p>○キャリア教育についての報告→3年間を見据えて生徒にとって自分の将来を考えるきっかけになるようなキャリア教育が大切であるとのこと意見をいただく。</p> <p>○「支援が必要な生徒へのどのような支援をしているか?」「総合的な探求はどのような内容?」「学校外でどのような広報活動をしているのか?」等の質問をいただいた。</p> <p>第2回（10/27）</p> <p>○授業見学→総合学科の特徴ある授業の内容について、生徒が楽しそうに生き生きと取り組んでいると一定の評価をいただいた（英会話・数学・カウンセリング等）。</p> <p>○令和3年度学校経営計画の進捗状況について、他校種や地域との交流の状況について報告→今年はコロナ禍で実施が厳しい状況であるが、次年度以降は、できるだけ積極的な交流を望むとのこと意見をいただく。</p> <p>○1人1台端末の進捗状況の報告→端末の活用をわかりやすい授業につなげるには、さらなる理論と研修が必要であるとのこと</p>

府立貝塚高等学校

<p>【「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成】</p> <p>○自己診断（生徒）から、「行事はみんなが楽しく行えるように工夫されている」89.5%（+0.7）、「保健室や相談室などで気軽に相談できる先生がいる」61.8%（+2.7）、「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」76.4%（+5.4）、「学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」73.3%（+2.4）</p> <p>以上のことから、コロナ禍で行事そのものの実施も危ぶまれた中、例年と違い様々な制約はあったものの、生徒は積極的に行事に取り組み達成感や満足感を得たのではないかと思う。中心になった生徒会部や3年次学年団の教員もよく頑張ってくれた。また、様々な課題を抱えた生徒がいる中で、教員がカウンセリングマインドを持って、生徒に接している成果が見えてきている。今後も、生徒とより良好な人間関係を構築し、教員に気軽に相談できる体制を作る努力を継続していくべきである。</p>	<p>見をいただく。また、クロムブックが不正に使われることがないのか心配であるとの意見もいただいた。</p> <p>○「自立支援コース生も端末を活用できているか?」「オープンスクールの宣伝や申し込みはどのようにしているのか?」等の質問をいただいた。</p> <p>第3回（1/26）</p> <p>○令和4年度学校経営計画について→委員全員に了解いただく。</p> <p>○コロナ禍の中の教育活動では、子どもたちの気持ちに寄り添い、親身にかかわることがより一層大切になるとのご意見をいただいた。</p> <p>○現在の教育活動を継続し、子どもたちが「入ってよかった」といえるような学校を作り上げてほしいとのご意見をいただいた。</p> <p>○先生方の取り組みを知って、保護者として「この学校でよかった」と思えることのご意見をいただいた。</p> <p>○オンライン授業の進捗状況や本校のヤングケアラーの実態はどうかとの質問をいただいた。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果をだす授業」をめざした取組みを進める。</p> <p>ア 総合学科の特性を活かした授業展開をもとに、従来の授業実践とICT機器を活用した授業を融合し、経験年数の少ない教員とベテラン教員との能力を組み合わせ、技術や知識の共有を図る。</p> <p>イ 授業を通して「自己実現力、協働力、深く考える力」を育むことをめざし、授業力向上のための、公開授業や校内研究協議を活性化する。</p> <p>ウ 自立支援コース生徒の進路実現に向け、校内サポートを充実させるとともに関係諸機関と連携し就労に向けた取組みを多面的に行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業力向上チームを中心に、授業アンケート、学校教育自己診断の結果を踏まえ、教材の精選・授業展開の工夫を行い、「生徒にとってわかりやすい授業」の構築に努める。</p> <p>・感染症対策と授業力向上のため、ICT機器を授業に一層活用できるように授業を工夫する。</p> <p>イ・進学希望生徒の増加を踏まえ、自学自習の姿勢を涵養するため、自習室の開室時間を生徒の希望に応じて柔軟に対応する。</p> <p>・進路HR、進学説明会等を通じて、多様化する入試制度を生徒にも保護者にも情報提供し、理解を深めてもらう。</p> <p>・自分の能力に応じた級の漢字検定、英語検定を受けるよう奨励することで、学習意欲を向上させ、達成感を持たせる。</p> <p>・「お互いに高めあう教員集団」の育成をめざし、全教員で教科の枠を超えてグループを作り、グループ内で相互授業見学期間を設け、その後、研究協議を行う。</p> <p>・教員の放課後の時間の確保のため、職員会議を月1回とし、各種研修を年度当初から行事計画に入れる。ICT機器による連絡手段を活用し、日常の連絡、情報共有、周知を図る。また、行事前における生徒の最終下校時刻を設定し、生徒も教員も負担加重のないように工夫する。</p> <p>ウ・自立支援コース生徒の進路実現に向け、本人・保護者の意向を踏まえ、関係諸機関とも連携を強化する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・自己診断（生徒）の「わかりやすい授業」65.7%を68%に。</p> <p>・自己診断（生徒）の「教え方に工夫をしている先生が多い」78.4%を80%に。</p> <p>・自己診断（教員）「ICTを活用した授業が多い」92%を堅持。 [R1 92.9%、R2 92.1%]</p> <p>イ・自習室利用生徒数を230人以上に。[R2 253人]</p> <p>・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応してくれる」85.1%を87%に。</p> <p>・自己診断（保護者）「教育情報について提供の努力をしている」90%を堅持。 [R1 87.0%、R2 90.6%]</p> <p>・就職一次合格率、85%以上に。[一次合格率80%]</p> <p>・進路未定率を1%未満に。 [R1 1.0%、R2 1.8%]</p> <p>・漢字検定受験者数80名以上。合格率65%以上に [56名受験、合格率64.3%]</p> <p>・英語検定受験者数150名以上。合格率60%以上に [89名受験、合格率60%]</p> <p>・自己診断（教職員）の「学習指導の方法等について他教科の担当者とし話し合う機会がある」80%以上を堅持。 [R1 60.7%、R2 81.6%]</p> <p>・自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能している」68.4%を70%に。</p> <p>・自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つ」81.6%を83%に。</p> <p>ウ・自立支援コース生の希望進路の実現100%[100%]</p>	<p>「わかりやすい授業」→70.5%（◎）</p> <p>*各教員の授業改善の成果。「教え方に工夫をしている先生が多い」→79.4%（△）</p> <p>*微増だがさらに努力を継続。「ICTを活用した授業が多い」→92.1%（○）</p> <p>*1人1台端末の取組みとコロナ対応の学習保障の影響。自習室利用生徒数→296人（○）</p> <p>*12月現在の人数「保護者の相談に適切に対応してくれる」→83.3%（△）</p> <p>*高率だがさらに丁寧な対応を。「教育情報について提供の努力をしている」→90.1%（○）</p> <p>*携帯メールとHPの活用成果。</p> <p>就職一次合格率→78%（○）</p> <p>*コロナ禍で求人微減の中よく健闘した</p> <p>進路未定率→1.2%（△）</p> <p>漢字検定受験者数→—人（—）</p> <p>*コロナ禍で予定回数実施できず合格率→—%（—）</p> <p>英語検定受験者数→80人（△）</p> <p>合格率→51%（△）</p> <p>「学習指導の方法等について他教科の担当者とし話し合う機会がある」→47.2%（—）</p> <p>*コロナ禍の影響で予定の研修の内容を変更したため。「各種会議が有効に機能している」→48.6%（△）*要検討である</p> <p>「校内研修は教育実践に役立つ」→62.9%（—）</p> <p>*コロナ禍の影響で内容の変更と予定回数が3回減った。</p> <p>自立支援コース生の希望進路の実現率→100%（○）</p>

<p>2 キャリア教育、人権教育の推進</p>	<p>(1) キャリア教育、人権教育を系統的、積極的に推進し、将来、職業人・社会人としてよりよく自己を活かして生きていくための基盤となる能力や態度を育成する。 ア 「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用して、3年間を見通したキャリア教育、人権教育を行う。 イ 「自分はどのように生きるのか」を考えさせ、「自分の生き方の指針」を生徒の中に作らせるための、人権教育とキャリア教育を推進する。 ウ 挨拶、礼儀、身だしなみ等、公共の場での自ら規範意識を高める態度を日々の教育活動の中ではなくむ。 エ 時間を守り、落ち着いて学習活動に取り組めるよう、基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>(1) ア・ルーブリック評価を用い、生徒に課題達成目標を明確に示し、プレゼン活動を充実させ、生徒のプレゼン能力を向上させる。 ・「産社」「総合探究」の時間を充実させるために、副担任も入り担任とTTで授業を行い、生徒により深く将来の進路について考えさせる。 イ・人権教育推進委員会を中心に、生徒の実情と社会状況に応じたタイムリーな人権教育を実施し、豊かな人権感覚を育てる。特に新型コロナ感染者に対する差別・偏見を許さない姿勢を獲得させる。 ウ・「身だしなみキャンペーン」の時期だけでなく、いつでも面接試験を受けられる身だしなみを心がけるよう指導する。指導内容を学校全体で統一し、生活指導は進路指導であることを生徒に理解させる。 エ・基本的な生活習慣の確立のため、生活指導部中心に遅刻件数を減らす。 ・指導効果を上げるため、件数の多い生徒には保護者と協力しながら指導する。 ・教員間に「生活指導は学校全体で取り組む」姿勢を作るため、遅刻指導を生活指導部以外の分掌とも協力して取り組む。</p>	<p>(1) ア・自己診断(生徒)「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」79.8%を80%以上に。 ・自己診断(生徒)「進路についての情報をよく知らせてくれる」85%以上に。 [R1 84.0%、R2 84.5%] ・自己診断(生徒)「進路や生き方について考える機会がある」80.8%を82%に イ・自己診断(生徒)「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」85%以上を維持。 [R1 79.2%、R2 89.3%] ウ・自己診断(生徒)「先生の指導に納得できる」62.9%を65%に。 エ・遅刻件数を18クラス規模で3900件未満にする。 [19クラス規模で4252件]</p>	<p>「自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」→79.3% (一) *コロナ禍で発表形式の授業が予定通りできなかった。 「進路についての情報をよく知らせてくれる」→81.3% (△) *伝え方の工夫を要検討。 「進路や生き方について考える機会がある」→81.6% (△) *微増。取組みを継続する。 「人権の大切さについて学ぶ機会が多い」→84.3% (△) *変わらず高い肯定率であるので現在の取組みを継続する。 「先生の指導に納得できる」→68.7% (◎) *生活指導方針が少しずつ生徒に浸透している。 遅刻件数を18クラス規模で3900件未満にする。 →4432件 (△) *結果にかかわらず取組みを継続していく。</p>
<p>3 「自主・自律・創造」力と「協調・協働」力の育成</p>	<p>(1) 多様な学びを通して身に付けた能力を最大限に発揮し、自律的自発的に活動し、自らの才能を開花させる環境を整える。 ア 学校行事や部活動を通して得られる連帯感と、集団活動によって味わえる成就感・達成感を体験させる。 イ 生徒同士がそれぞれの違いを理解しようと努め、意思疎通を図ることによって互いを尊重し、協働できる姿勢をはぐくむ。 ウ 国際理解教育を進めるため、海外の生徒と交流する機会を設ける。 エ 生じた事案を教育相談係や年次連絡会で集約し、本人の希望を尊重しながら情報の共有化を図り学校全体で支えていく体制を充実させる。 (2) 他校種や地域との連携を深めるとともに学校情報の積極的な発信を行う。 ア 近隣の小中学校や施設との連携を強化し、地域に一層信頼される学校をめざす。 イ 学校ホームページや校長ブログを活用し、学校情報発信を積極的に行う。</p>	<p>(1) ア・行事を通して多くの感動を体験させ、自己肯定感を高める取組みを推進する。 イ・体育祭、文化祭等の行事に工夫を凝らし、協働する姿勢や他者を思いやる心を育み、仲間づくりを進める。 ・授業において、探究活動や発表活動を積極的に行い、自主的活動を促進し、互いに発表しあうことでコミュニケーション能力を高める。 ウ・海外の生徒の授業参加や生徒との交流行事を行うことにより、異文化に対する理解を深め、国際感覚を身に着ける。 エ・課題のある生徒に迅速かつ組織的に対応するために、生じた事案を年次団会議、教育相談委員会や年次連絡会で集約し、情報の共有化を図る。 ・課題のある生徒に迅速かつ組織的に対応するために、年次団会議等で生徒の情報交換を密にし、常に情報共有に努める。 (2) ア・地域の人を招いた農産物販売や学習成果発表会、部活動で中学生を招いての合同練習や本校主催のカップ戦などを実施し、学校の取組みを外部の人に発信し、本校への理解を深めてもらう。 ・近隣の幼稚園、小中学校や施設、と生徒・教職員の交流を積極的にすすめ、本校への信頼を深めてもらう。 イ・Webページで、“生徒の活動の見える化”に取り組み、より本校の教育活動の魅力を知ってもらう。 ・生徒が積極的に関わる広報活動を進め、関わった生徒の自己肯定感を高める。 ・Webを活用した広報活動を推進し、より多くの人に本校の魅力を知ってもらう。</p>	<p>(1) ア・行事満足度95%を堅持。 [R1 98.6%、R2 98.3%] イ・自己診断(生徒)「行事が工夫されて」85%以上を堅持。 [R1 80.8%、R2 88.8%] ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身に付いた」85%を堅持。 [R1 90.2%、R2 89.0%] ウ・海外の生徒の学校訪問を受け入れ、生徒との交流行事を複数回行う。[0回] エ・学校教育自己診断(生徒)における「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」71%を72%に。 ・自己診断(生徒)「保健室や相談室で相談できる先生いる」59.1%を60%以上に (2) ア・中高の部活動交流の実施クラブ数(5部)以上。[0回] ・自己診断(生徒)「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」54.4%を56%に。 ・地元の小中学校と連携し、授業見学や合同研修会を実施。 ・自己診断(生徒)「地域や近隣の学校との交流がある」60%以上に [R1 56.7%、R2 52.8%] イ・“写真でみる貝塚高校”と“校長ブログ”は月2回以上更新する。 ・すべての学校説明会で生徒が作成した成果物を活用し、生徒を参加させる。 ・学校紹介に関する動画を5種類以上掲載する。</p>	<p>行事満足度(生徒会ANKより)→96.5% (○) 「行事が工夫されている」→89.5% (○) *コロナ禍の中、教師も生徒もよく頑張った。 「コミュニケーション能力が身に付いた」→アンケート実施できず(一) 海外生徒との交流行事→コロナ禍で実施できず(一) *次年度はぜひ実現したい。 「悩みや相談に親身なって応じてくれる先生がいる」→76.4% (◎) *カウンセリングマインドを大切にしたい。 「保健室や相談室で相談できる先生いる」→61.8% (○) *教育相談体制の整備の成果。 中高の部活動交流→コロナ禍で実施できず(一) 「生徒は部活動に積極的に取り組んでいる」→64.3% (◎) *さらに仕掛けを考えていく。 地元の小中学校と連携→コロナ禍で実施できず(一) 「地域や近隣の学校との交流がある」→57.5% (一) *コロナ禍で予定通り実施できず。 “写真でみる貝塚高校”と“校長ブログ”の更新→(○)写真で見る38回・校長ブログ36回更新 学校説明会での成果物の活用と生徒の参加→(○) *すべての説明会で生徒出演の動画を流した。 学校紹介動画を5種類以上掲載→首席が中心となり作成(○)</p>